

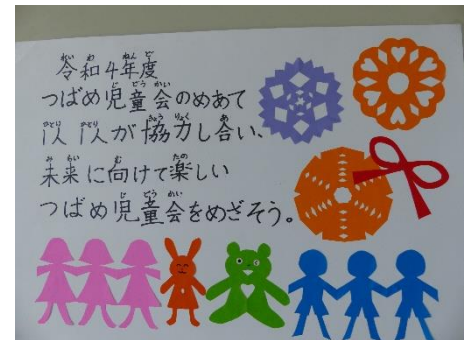


## 未来を夢見て Season3

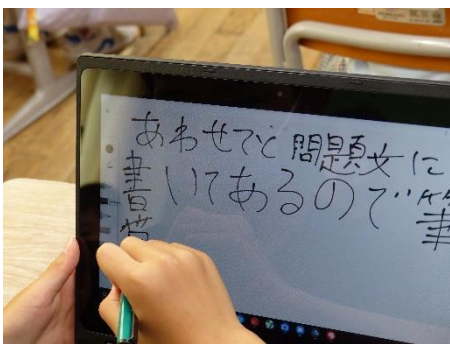
2022/7/4 No. 151

### 子どもたちの活躍・全校授業・研修の日常化「青空へのぼろう」

7月1日（金）校長室に、全日本小学生バレーボール大会宮城決勝大会混合の部で見事優勝した小野小レッドリーブスの今野団長さんはじめ選手の皆さんが優勝の報告にきてくれました。レッドリーブスのみなさんは、夏休みに行われる全国大会に出場することが決まりました。レッドリーブスの皆さん、全国大会での健闘を期待しています。また、6月24日（日）には小野小ジュニアウイングスの皆さんの主催大会にお招きいただきました。コロナ禍で、3年ぶりとなった主催大会。炎天下の1日でしたが、子どもたちのはつらつとしたプレーからたくさんの元気をもたらすことができました。



上段右は代表委員会で決まった令和4年度のつばめ児童会のめあてです。一人一人が協力し合うこと、「未来」に向けて楽しい児童会をめざすこと、子どもたちの願いや思いが短いフレーズの中に凝縮されていて、すてきなめあてとなりました。計画委員会の皆さん、そして学級の代表として話し合いに参加したみなさんお疲れ様でした。



さて、6月30日（木）には算数科全校授業研究会が4年3組で行われました。授業でも検討会でも注目はタブレット。タブレットをいかに有効に活用するかに私も注目して授業を参観させていただきました。授業で教育機器を活用することは、昔からの課題で、私が経験してきただけでも、16ミリフィルム、スライド映写機、OHP、アナライザー、実物投影機等、時代とともに様々な機器のお世話になりました。そして、これらの機器を使うことの目的はただ1つ。それは、**子どもが確かに分かるための授業をすること**、この1点でした。コロナ禍でタブレットの普及が一気に進みましたが、現場での活用はこれからが課題です。今回のGIGAスクール構想はタブレットを文房具のように使うことが目的です。そのためには、信哉先生が育てたように、あの4年3組の子どもたちの姿がお手本ですね。

7月1日（金）、音楽部の先生方のリードで先生方の歌声が職員室に響きました。もちろん目的は研修ですが、みんなで同じ曲を歌う、この一体感他に替えがたい経験です。改まって研修の機会を設けるのではなく、こんな小さな研修の積み重ねの中にこそ「研修の日常化」があること、そしてその大切さを感じた一時でした。

（文責：手代木）